「房総」千葉介常胤を生んだ地⑥

波乱の生涯を乗り越えて

常胤は長寿であった。平均寿命が40歳代の時代にあって、84歳という年齢は今日の百歳以上に相当する。そして、その人生は波乱に満ちたものであった。

百歳の老人インタビューを度々見受けることがある。いずれも「頭がしっかり」していて「明るく」「運動をしていて」「お酒は少々」「腹八分」という共通点がある。これを加味して常胤の性格や生き方を想像してみた。困難続きの人生にあって84歳の天寿を全うした常胤は、身体も精神も強靱で、思慮深いが大らかな人柄であったのではないか。でなければ、中興の祖として一族をまとめ繁栄に導いた意志の強さと長寿が両立したとはとても思えないからである。

手賀沼周辺にあった相馬御厨

所領失う試練

元永元年5月24日（1186．6．14）、下総の在庁官人千葉介常重の子として生まれ、最初の試練は常胤が19歳の時に訪れた。そのころ父常重は相馬郡（現、茨城県取手市・千葉県柏市など）の郡司職を一門の叔父から継承し、郡内の布施郷（現、柏市布施）を伊勢神宮に寄進し相馬御厨そうまのみくりやとした。そして、その上で保延元年（1135）に相馬御厨の地主職を18歳の常胤に譲った。災難は翌年に起きる。父常重の税の滞納に目をつけた下総守藤原親通によって、相馬と立花両郡の郡司職を召し上げられてしまったのだ。更に源義朝（源頼朝父）が相馬御厨を自らのものと主張し、伊勢神宮に寄進してしまった。もともとの所有者である常重・常胤親子にとっては耐え難い屈辱であり災難であった。この後、御厨をめぐっての争奪戦は長期に且つ複雑に繰り広げられるが、いきさつを詳しく知りたい方は、好書（※注）がいくつかあるのでそちらをご覧いただきたい。結果としては家督を継いだ常胤が、久安2年（1146）に未納分の税に追徴分を加えて国衙（国府の役所）に支払い、まず相馬郡の権利を取りもどした。律令制下の税は現物で「上品八丈絹布30疋・同下品70疋・縫衣12領・砂金32両・藍摺布上品30段・同中品50段・上馬2疋・鞍置駄30疋・」というから、現代の価値にしたら一体いくらになるのであろう。これは千葉庄から領家に支払われる税の他にコツコツと蓄えた分から払ったものだろう。二つの領地を失った常胤らにとっては辛い10年間であったに違いない。その後、常胤は保元の乱（1156年）で義朝の勢に加わったが、続く平治の乱（1160年）には参加しなかった。そもそも義朝は相馬御厨だけではなく、同時期に相模にあった大庭御厨にも触手を伸ばし、相模の在庁官人を伴って大規模な収奪を行っており、常胤にとっては危険な人物でもあった。にもかかわらず、彼の指揮下に入ったということは、おそらく郎党となることによって所領の支配強化を狙ったものだろう。ところが、平治の乱では中立を保った。ご存知のとおりこの乱で義朝は敗死する。常胤が義朝の人となりや情勢を冷静に判断していたであろうことが窺い知れる話である。

坂東の律令制

しかし一難去ってである。今度は「相馬御厨は罪人義朝の領地である」として、平家の威光を高に常陸の佐竹氏が介入してきたのだ。当時の坂東が律令制下とは名ばかりで、実際には実力がものをいう地域であったことを如実に物語る出来事であった。

この後、常胤の諸領が完全に安堵され、安定した支配権を確立するのは鎌倉に武士の政権が誕生した1180年以降のことであり、常胤62歳の時であった。御厨めぐっての攻防は収束するまで実に43年の歳月を要している。このことは、権門勢家に領地を寄進しても庇護が不完全であったことを表しており、頼朝による所領安堵の方が武士にとってははるかに実質的であり、堅固なものであったことを示している。これこそが坂東の武士達が望んでいた社会であり、常胤が頼朝を支えてきた一番の理由と言ってよい。なお、常胤の所領安堵については次のような逸話が残っている。建久3年8月の「政所はじめ」の際に役所の作った所領安堵の下文（下達文書）に常胤だけは満足せず、頼朝の直判による下文を求めたのだ。辛苦を乗り越えて領地を守り抜き、一族繁栄の道筋をつけた常胤ならではの話である。

房総の地に確固たる地盤を築き有力御家人の地位を得た千葉氏は、この後大いに栄え、日本各地にその根を下ろしていった。私ごとだが、教え子に千葉さんがいて、男子親族の名には必ず胤の一字がつけられるとのこと。彼女の父の出身は佐賀県であり、実に740年前、元寇の際に九州防備のため派遣された千葉氏一族の末裔ということになる。もう一人は相馬君で、やはり名に胤の一字が加わる。相馬野間追で有名な相馬氏は、頼朝から給与された陸奥国小高（現、南相馬市）を本拠地とした千葉氏一族で、江戸時代の相馬藩へと続く。根が相馬御厨にあることはいうまでもない。

常胤の奇跡的な長寿

さて、話を常胤個人に戻そう。常胤の人生は難事と緊張の連続で、ストレスだらけの人生だった。ところが彼は希に見る長寿である。なぜだろう？　第一に健康だ。同時代に生きた平清盛の死因については諸説あるが、まず疑われたのが腸チフスで次にインフルエンザ、いずれも大病である。また、天然痘もたびたび流行し、こちらは最も危険で致命的な伝染病だった。伝染病だけではない。源頼朝の死因は落馬が原因といわれているが、真冬の寒い時期、相模川に架かる大橋落成式での出来事であり、脳溢血の可能性が高いといわれている。

常胤にはそうした大病や大けがが無かったということである。当時の医療や薬は病に対して効果があるようなものではなく、人々の多くは陰陽師や祈祷による呪文や儀式で病魔退散を祈り祓った。これで生き残った子孫が私たちということになるが、一体何割の人が死から免れられたのだろうか。いずれにしても病気や怪我、加えて自然災害に対して無防備・無抵抗な時代で、平均寿命が40歳代というのもうなずける話だ。

常胤の墓は千葉にも鎌倉にもあると言われるが、魂は永遠に千葉の地に眠っている。

（※注：「千葉氏探訪」監修・千葉氏顕彰会・「投獄の自立と千葉介常胤」千葉氏フォーラム実行委員会）

多賀譲治　プロフィール

多賀歴史研究所代表・元玉川大学教育博物館研究員。
フィールドワークを重視した歴史研究を続け、NHKをはじめとした歴史番組の時代考証、新聞への連載、講演会などの活動を行っている。玉川大学・学園に設置された「鎌倉時代の勉強をしよう」は鎌倉時代のWEB学習ページとして国内最大のもので、学校教育に限らず鎌倉時代に興味ある人にとって役立っている。
著書に「知るほど楽しい鎌倉時代」（理工図書）などがある。

一番身近なITパートナー　OA機器・測量器 のことなら
SOKKI 千葉測器
本社　千葉市中央区都町 2-193　TEL　043-231-2351　サービス拠点　27 拠点（千葉・東京・茨城）
協賛　SOKKI 株式会社 千葉測器　千葉信用金庫